

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700083		
法人名	医療法人友朋会		
事業所名	グループホーム千寿荘(寿A・B)		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919番地		
自己評価作成日	平成22年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年10月19日	外部評価確定日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. その人らしいあり方を尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法を大切にしている。</p> <p>2. 専門の芸術療法士が月2回のペースで陶芸療法を行い、生き活きとした表情で作品作りに取り組まれている。</p> <p>3. 毎年利用者様とご家族のふれあいが深まり、良い思い出が作りが出来る事を目的に、日帰り旅行を計画し継続している。</p> <p>4. グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」をご家族へ発行し、利用者様の生活が見えるようにしている。</p> <p>5. ボランティア活動の受け入れを行ない、地域の方々とのおふれあいを通じて感受性を豊かにして頂くようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>芸術療法士の指導により利用者が制作された花器、絵皿等が飾られ、玄関には利用者が活けた花が飾られている。職員の意識は、入居者に寄り添い支えることへ向いている。職員たちは、お互いさまという思いでそれぞれをフォローしあっているため、事業所内の雰囲気も良く、ひいては入居者にとっても和やかに過ごせる場となっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や基本方針を朝のミーティング時に唱和し、念頭に置き個別にあった関わりをしている。食材の買物、調理、農園芸など日々その人ができることへの取り組みを実践している。	左に同じ	左に同じ		母体である友朋会の理念を元に、介護に関わる職員間で話し合い独自に作り上げている。毎朝のミーティングで唱和することは常に原点に立ち戻るきっかけとなり、出来る事を活かすという思いは日々のケアに反映されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の老人会、民生委員にメンバーとして入って頂き、荘内の行事のお知らせをして、ボランティア参加の呼びかけも行っている。嬉野市から文化祭への出品展示の申込ハガキを毎年頂いている。作品コーナーも設けて頂き、利用者の皆様も見学に行くのを楽しみにされている。近隣の民生委員と連携を図り、嬉野町近隣の老人会、子供会の皆様と清掃活動を行っている。9月4日は2名の利用者も参加され地域の方と交流ができた。	左に同じ	左に同じ		毎日の食材の買い物や地元の美容院の利用は地域とふれあう絶好の機会となっている。また、市の文化祭への出展や年2回ではあるが地域の清掃活動へ参加するなど、徐々にその輪は広がっている。しかし、母体である友朋会主催の盆踊り大会などへは近隣住民の参加はあるものの、事業所への気軽な立ち寄りなどは少なく、陶芸教室を開く案など積極的に交流を深める方法を計画中である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設医療機関の地域連携室主催で、昨年11月の健康教室には参加し、今年9月4日には内野地区で「認知症の介護予防」をテーマに健康教室が開催された。その準備に協力した。	左に同じ	左に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や行事報告、今後の行事予定などを報告し、それに対する意見、提案などを伺っている。また利用者と一緒に食事や会話をする時間を設けている。献立についての感想や意見を聞いたりしている。外部評価の結果について報告し、意見を出してもらい次に活かしている。ボランティア活動として、地域の清掃活動に職員が参加するようになり今年度は利用者の参加もできた。	左に同じ	左に同じ		入居者や家族の出席もあり、報告だけに止まらない率直な意見交換の場となっている。酒類については入居者の希望や会議での意見から、誕生日など特別な日には提供しようとなったのはその一例である。また、当日時間の許す方には入居者と共に昼食をとってもらい、献立の感想や普段の様子を見てもらうようにしている。

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の介護相談員派遣事業を受け、利用者から意見などを聞いて頂き、気軽に話し合っておられる。嬉野市地域包括支援センターと市内のグループホーム3箇所で開催ができていない。	左に同じ	左に同じ		市町村の担当者は運営推進会議のメンバーでもあることから日頃より顔なじみとなり、実直に対応してもらえる関係が出来ている。また、市町村側にも協働の姿勢は見られる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本方針に身体拘束をしないことを明記し、毎朝業務開始前に声を出して意識づけを行っている。現在、身体拘束はゼロである。管理者は併設病院の身体拘束廃止委員会に出席し職員へ伝達講習を行い理解を深めている。研修や勉強会へ参加している。	基本方針に身体拘束をしないことを明記し、毎朝業務開始前に声を出して意識づけを行っている。現在、身体拘束はゼロである。管理者は併設病院の身体拘束廃止委員会に出席し職員へ伝達講習を行い理解を深めている。研修や勉強会へ参加している。エレベーターや階段出入口は午後12時から3時間開放し、それ以外は安全確保の目的で施錠している。	基本方針に身体拘束をしないことを明記し、毎朝業務開始前に声を出して意識づけを行っている。現在、身体拘束はゼロである。管理者は併設病院の身体拘束廃止委員会に出席し職員へ伝達講習を行い理解を深めている。研修や勉強会へ参加している。階段出入口は午後12時から3時間開放し、それ以外は安全確保の目的で施錠している。		身体拘束に関する勉強会も実施していることから、全職員がその内容と弊害を認識している。更に、毎朝の唱和にもその項目があり意識づけをしている。職員のさりげない見守りや連携プレーで、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	友朋会の高齢者虐待防止・対応マニュアルを参考に学習会を行っている。また毎日入浴時に全身の観察を行っている。家族にも困ったことはないかなど尋ね、現在家族からの意見はあっていない。職員間で接遇またヒヤリハットの事例を基に検討会を行い周知している。	左に同じ	左に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設の人権擁護委員会に管理者が参加し、事例を上げ弁護士に意見を聞き話し合う機会がある。また看護部教育委員会の人権に関する研修会に参加して他の職員にも伝達講習をしている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時に説明を行っている。契約に際しては利用者、ご家族と十分に話し合える時間を取っている。必要に応じて千寿荘担当の精神保健福祉士と連携を図っている。また介護保険改定時には、利用者、ご家族に改訂した利用説明書を提示し、説明を行い了解を得ている。	左に同じ	左に同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し苦情相談の流れを掲示している。公衆電話の前には公的相談窓口のマニュアルも設置している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが、現在苦情は発生していない。朝の集いで、職員や生活環境面について困った事はないか、利用者様に尋ねている。ご家族の面会時に利用者様を交え近況の情報提供を行っている。家族懇談会でのご家族の意見を日頃の業務や行事などに反映させている。	寿Bと共有	意見箱を設置し苦情相談の流れを掲示している。公衆電話の前には公的相談窓口のマニュアルも設置している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが、現在苦情は発生していない。朝の集いで、職員や生活環境面について困った事はないか、利用者様に尋ねている。ご家族の面会時に利用者様を交え近況の情報提供を行っている。家族懇談会でのご家族の意見を日頃の業務や行事などに反映させている。	意見箱の設置や介護相談員の来所、家族の面会時など、様々な機会に意見や要望を引き出す努力をしている。入居者の金銭管理で、家族へ報告する際の通帳記帳のタイミング改善は意見反映の例である。また、外部に意見や苦情の窓口があることも説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護者会議・看護師会議・千寿荘会議を月1回開催し運営に関する意見や提案を聞き、それぞれの議事録のコメント欄にコメントを記載し全職員に伝えるようにしている。代表者は定例の運営会議で管理者との意見交換を行う機会がある。また、事務長、看護部長、担当看護部副部長も巡回時に職員の意見を聞く機会を設けている。	月1回開催している介護職会議・看護師会議・千寿荘会議の中で、運営に関する意見や提案を出してもらい検討している。議事録を記載し全職員に周知できるようにしている。看護師会議に介護福祉士が1名、介護職会議に必要に応じて看護師が1名参加し、会議に対しての気付きや意見を述べる機会を作り相互理解につなげている。管理者は母体定例の運営会議で開設者との意見交換を行う機会がある。また事務長や看護部長も巡回時に職員の意見を聞く機会を設けている。	寿Aと共有	現場の職員の意見は貴重であるとの認識から、ミーティングや勉強会、個別面談など意見をきく機会も多く、職員もまた忌憚なく述べている。管理者は日頃の巡回などでもコミュニケーションを図るように心掛け、職員に問いかけたり耳を傾けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設全体の労働衛生安全委員会の「メンタルヘルスサポート体制」を示し、相談はいつでも行えるように掲示している。労働安全衛生委員会の職場巡視の際にも設備面や労働環境全般に対して要望を述べる機会がある。また、併設施設の看護部長が毎年6月に職場環境調査や職場ニーズ調査を行い、職員から直接意見を収集できる仕組みがある。運営会議の場や毎月の管理日誌、種々の理事長提出書類にてサービス提供状況・勤務状況を把握し、年度末人事考課システムや介護職事例発表集で職員個々の実績評価をしている。希望する職員に対して時間や費用などを積極的に支援している	左に同じ	左に同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの質の向上の為に認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、介護支援専門員研修、認知症対応型サービス事業管理者研修に該当者を参加させている。また介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士の資格取得に向けての支援や院内外への研修会に参加できる様に職員の人員を確保している。荘内では看護、介護実践能力評価表に基づき基本的な知識・技術・態度が身についているかを自己評価し、他者評価を行い段階的なレベルアップに努めている。	左に同じ	左に同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会主催の研修会に参加し、お互いのサービス内容の情報交換や鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会の研修会などに参加して、地域の同業者から情報を得たり、サービスの質の向上への取り組みを行っている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることに対し、可能な限り関わりを多く持ち穏和に努めている。特に初期はユニット責任者が関わり、状況を把握し他のスタッフと共有することで安心を確保できるように努めている。またご家族にも面会や電話での関わりなど協力を頂いている。	左に同じ	左に同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望については親身になって聞き、電話や文書で伝えている。必要に応じて介護支援専門員や担当の精神保健福祉士にも相談し、ユニット責任者と共に話し合いの場を設けている。ご家族の思いや状況を理解し、いつでも相談しやすい雰囲気作りに努め信頼関係につなげている。	左に同じ	左に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者様から相談を受けた時に、グループホームの運営方針とニーズがマッチしているかを判断し、症状や介護度によって受けられるサービスも視野に入れ、ソーシャルワーカーやケアマネージャーと共にご家族の支援にあたっている。	左に同じ	左に同じ		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、感謝、ほめる、共感の言葉を多く使うようにしている。また掃除や料理、洗濯に関する事などの家事活動は、能力に応じて全ての利用者様をお願いしている。食材の買物や菜園については希望を尋ね、気持ちを尊重するとともに意欲アップにつなげている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月郵送している健康管理と共に、行事の案内を行い参加を呼びかけている。参加されたご家族は、和気藹々とした雰囲気の中で利用者様・職員と一緒にゲームなどを楽しんで頂いている。行事や利用者様の生活状況が分かるように千寿荘新聞「鶴亀たより」を定期的に発行しご家族へ郵送している。今年度の敬老会では、利用者・ご家族に芸術療法士の指導のもと、皿への絵付け作業を行ってもらった。和やかな雰囲気でご過ごされた。	左に同じ	左に同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院受診を希望される方へは家族に協力してもらい付き添いをお願いしている。また行きつけの美容室を継続して利用できるように支援している。	左に同じ	左に同じ	本人との会話や家族からの情報でこれまでの周囲との関わり等を把握している。友人の面会にも臨機応変に対応したり、昔からのかかりつけ医で受診もしている。また、行きつけの美容院へも通い続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を考慮し、利用者同士の関係が良好に保てるようにテーブルの席や入浴の順番にも配慮している。一人で歩けない利用者様の下膳をして頂いたり、利用者様の能力に応じてお互いに助け合える関係作りを支援している。	左に同じ	左に同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設医療機関への入院の為退荘された後訪問し、病状を尋ねたり、他の利用者と共に見舞いに立ち寄りしたりしている。	左に同じ	左に同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1~2名に対し職員1名の担当制も取り入れ、利用者の思いや希望など意向の把握に努めている。料理では下準備として牛蒡そぎや、出来た料理のつぎ分け、食後片付け等、生活リハビリとして自立支援をめざしている。	左に同じ	左に同じ	入居者ごとに担当職員を決めている。その職員は目線を合わせ、表情や日々の行動から思いを汲み取り把握に努めている。困難な場合は時間を置いて尋ね直したり、本人はどうしたいのかという視点に立って話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より生活史として情報収集し介護計画に活かしている。利用者様の状態やご家族その他利用者様を取り巻く環境について、毎年データベースの見直しを行い、最新の情報を基に介護計画に活かしている。	左に同じ	左に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助項目に沿って日々の記録、また各勤務帯で利用者の状況がわかる記録を行っている。各担当者で10日毎に援助内容の評価を行っている。サービス計画書の6か月毎の評価、3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議で他職種の情報も含め把握・評価できるようにしている。	左に同じ	左に同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者様、ご家族、担当医、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。担当医が参加することで、ご家族は医療面その他についても気軽に相談できるようにしている。	左に同じ	左に同じ	日々の関わりの中で本人や家族の意見を聞き反映させている。計画の見直しは設定期間ごととはもとより、本人や家族の要望、変化に応じて臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書に沿ったケアの内容を共有しながら実践している。実践した内容は記録に残し、日常生活動作能力経過表を基に介護計画の見直しに活かしている。	左に同じ	左に同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に対し、その時々に応じて内科や眼科、歯科など受診しやすい環境である。地域のボランティアに慰問に来て頂いたり、行事に民生委員やボランティアの方に参加して頂いたりしている。毎日の食材の買い物や散歩、外食など積極的に取り組み、また地域の行事へも参加している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へスーパーへの買い物、理美容室を利用している。また併設施設内の喫茶店で自分の好きなものを選んでもらい、飲食を楽しんでもらっている。市報「うれしの」「県民だより」で情報を提供し、地域の行事への参加につなげている。	左に同じ	左に同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が必要となった場合は、協力医療機関である嬉野温泉病院と連携を図り受診している。本人、家族の希望や必要時はご家族の協力を得て希望される医療機関へ受診してもらっている。	左に同じ	左に同じ	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人の今までのかかりつけ医や希望する病院での受診となっている。同じ敷地内にある協力医の受診の場合は職員同行が可能だが、それ以外は基本的に家族同行としている。受診結果は毎月の健康管理通知で行うが、ケースによっては当日中の連絡もしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名以上の看護士を配置されており、毎日最低1名以上の看護士が勤務している。日常的な健康管理を行い身体的、精神的状況の把握に努めている。介護職員は看護士と連携を図り、情報の報告、指示、助言を受け、必要な対応を行っている。	左に同じ	左に同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設施設に利用者が入院された場合は、職員が面会に行き、病棟スタッフとの情報交換を行い、回復状況を見て退院日の調整を行っている。	左に同じ	左に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用説明書に重度化した場合の対応について明記し、入所時に利用者様・ご家族に説明し、ご意見を聞きながら方針を共有している。急変時対応希望書に心停止や呼吸停止、外傷などによりご本人との意思疎通が取れなくなった時やご家族とすぐ連絡がつかない場合の対応について具体的な項目を選択して頂き、サインを得ている。ご家族の要望を取り入れるため併設施設や地域の医療機関との連携を図っている。	左に同じ	左に同じ	これまでに看取りの経験はない。入居時には重度化に伴う意志の確認を取り、事業所が対応しうる最大のケアについての説明もしている。職員は、一度決めた方針でも状況変化などの度に揺れ動くものと理解し、それに真摯に向き合い、お互いが納得できるように話し合いを繰り返している。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置用物品の整備と使用法の研修を行い、応急手当のマニュアルや併設病院への緊急連絡網を明示し活用できるようにしている。応急手当マニュアルに沿って全員が応急処置ができる。AEDや吸引器の取り扱いについては、職員全員が併設病院の研修を受け使用できる。一次救命処置の資格を4名の職員が習得している。	左に同じ	左に同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。またホーム独自でも定期的に昼夜それぞれ設定し、消火、通報・連絡、避難誘導訓練を行っている。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができています。火災通報装置が設置された。またスプリンクラーが設置された。	法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。またホーム独自でも定期的に昼夜それぞれ設定し、消火、通報・連絡、避難誘導訓練を行っている。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができています。火災通報装置が設置された。	左に同じ	年2回、昼間と夜間(19時頃)に消防署や地区の消防団の協力も得ながら入居者と共に避難訓練を行っている。全職員が消火器や消火栓からのホースの使い方も訓練している。同じ敷地内に母体の病院や施設が多数あり、事業所の緊急時にはすぐに駆けつける体制が出来ている。火災通報装置のほかスプリンクラーの設置もあり、非常用の食料や備品も母体が備蓄している。一時避難場所等は家族にも伝えており連絡体制はできています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針に「人権擁護」を掲げ、接遇に関する注意事項を毎朝ミーティングで唱和し、利用者様の人権尊重を意識した関わりが出来るように努めている。しかし不十分なところもあり、併設施設の教育委員会主催の研修に参加し、意識向上に努めている。	左に同じ	左に同じ	年長者として敬意を払い、恥ずかしいことは決して行わない、守るべき情報は漏らさないなど人権の意識は高く徹底している。ホーム便りに掲載する写真等は必ず本人や家族の了承を得ている。トイレ介助の際には本人の気持ちを考え離れて見守り、必要な時に鈴を鳴らしてもらうなどナースコールが苦手な入居者へも支援ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集いの時間にその日の体調を含め、一日の過ごし方について自己決定できる機会としている。思いや気持ちを表出しない方には個別に関わり、その方の気持ちに沿うよう心がけている。	左に同じ	左に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、ゆっくりとした穏やかな時間を過ごせるように、利用者様本位の支援を行っている。週間サービス予定表、日課表は個別に作成しているが、その日の状況に応じた支援を行っている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好むおしゃれを支援している。朝はポイントメイク、外出時は簡単なメイク、入浴後は化粧水をつけるように利用者様に応じた支援を行っている。外出時には普段着から外出着へ衣類の選択支援を行っている。また入所前からの行きつけの理美容院へ行くように職員が同行したり、ご家族へ協力を依頼している。	左に同じ	左に同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯を炊き、季節の山菜、旬の食材を使った献立としている。誕生日には利用者の好物を献立に取り入れている。食材の買い物、調理、味付け、後片付けなどは、利用者様の意志、希望を尊重し一緒に行っている。週2回の朝食時のパンは、利用者様の好みを聞き、6種類のパンを選択し、毎月2種類のパンを月毎に替えて提供している。	左に同じ	左に同じ	メニューには入居者の希望も入れており、食材には所内の畑からの収穫したものもある。誕生日には食べたいものを用意し、梅酒などのアルコールも出している。準備や片付けは職員の見守りの中、入居者は出来ることを手伝っている。職員も一緒に囲むテーブルでは会話もあり笑い声も聞かれる。週2回、朝食をパンにするなど工夫をこらした支援の中で入居者の食欲も維持されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成については、管理栄養士の指導を受け、カロリーや栄養バランスに留意している。年2回の定期健診の結果から、栄養アセスメントを行うと共に担当医、管理栄養士からのアドバイスをもらっている。個々の利用者様の嗜好やアレルギー食材等の把握も行い配慮している。義歯の有無や状況に応じて主食の二炊きや副食のキザミ食等、摂取しやすいように支援している。	左に同じ	左に同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の際、義歯の装着具合や摂取状況を見ている。また毎食後に歯磨きや義歯洗浄の支援も行っている。必要に応じて歯科受診を行なっている。又、週に1回ポリドントによる義歯洗浄や歯ブラシ、コップの洗浄も毎回行い清潔にも気を配っている。嚥下力や口の周りの筋力アップを目標に「健口体操」を行っている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所後3日間は、排尿排便の時間や性状を排泄管理表にチェックし、個別の排泄状況を把握している。誘導はさりげなく早めに声かけを行い、安易に紙おむつ等は使用せず、トイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	左に同じ	左に同じ	トイレでの排泄を心掛け、個別に観察しパターンを把握している。さりげない前誘導や失禁時の対応など入居者の自尊心、羞恥心に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため毎日屋内外の散歩などの運動を取り入れている。便秘傾向の利用者様には、食物繊維を多く含む食品や、自家製のヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。	左に同じ	左に同じ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様に入浴時間の希望を聞き、入浴の方法や時間帯など、個人のペースで入浴できるように心掛けている。誘導時に拒否のある利用者様には、声かけの工夫をしたり、時間の配慮をしている。	左に同じ	左に同じ	入浴は毎日で時間帯は昼間となっている。浴室は広く、浴槽の中には特注の踏み台が設置でき、楽に浴槽へ入れられるように工夫している。脱衣場は床暖房ではあるが冬場はヒーターでも暖め温度差を少なくしている。着衣の脱ぎ着は出来る限り入居者に任せ、職員は見守りながら支援している。友人同士の入浴があったり、担当の職員を決めてからは拒む入居者も殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを守りつつ、年齢、身体の状態等に合わせて午睡や休息も取り入れるようにしている。一人ひとりの気持ちや意思を尊重し休息のケアに配慮している。必要に応じて入眠されるまで側に寄り添い、添い寝をする等安心して入眠できるようなケアを行っている。	左に同じ	左に同じ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から薬の名前、作用、副作用などの説明書もらい、カルテに綴じて何時でも見れるようにしている。処方変更があった場合は、その都度差し替えスタッフ間で共有している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。女性は食事の準備や後片付け、食材の買い物や洗濯物干しや取り込み、たたみや利用者ごとの振り分けまでされている。男性は一日のメニュー書きやホールの窓、障子の開閉等を担当してもらっている。要望があれば出来る事、出来ない事を見極めて職員と一緒にしたり、見守りながら行なわれ、それぞれ役割意識が高まり喜びにも繋がっている。	左に同じ	左に同じ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩やディホールでの活動を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また毎日の食材の買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。金銭の自己管理をされている利用者様は、内服薬が処方された際に薬局まで行き自分で支払いができるよう支援している。	天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩やディホールでの活動を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また毎日の食材の買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。	左に同じ	入居者との毎日の食材の買い物は暮らしの中では当たり前のこととして支援されている。美容院なども地元へ通ううちにそこがなじみの店となり外出の楽しみとなっている。事業所は母体の病院と共に広い敷地の中にあり坂道も多いが、散歩には職員が付き添い入居者のペースで過ごしている。また、気分転換として病院内の売店や喫茶コーナーへ出掛けることもある。年1回の日帰りバス旅行は特別な楽しみとなり参加する家族も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。地域のスーパーや近くの売店で買い物される際、直接お金を支払ってもらいお金に触れる機会を作っている。	左に同じ	左に同じ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に設置してある公衆電話をいつでも使用できるようにしている。また金銭を所持されていない利用者様がご家族への電話を希望された場合は、事業所から取り次ぐなどの支援を行っている。利用者様が活動で作成したはがきを利用して年賀状や暑中見舞を出す事ができた。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホールの天井は吹き抜けで、囲炉裏があり古民家風の建物である。窓は大きく日光は十分に取り入れられる。照明は明るすぎないように調整され、窓には内側に全て障子風の二重戸にし、落ち着いた家庭の雰囲気を感じられるよう工夫している。	玄関には季節の花や置物を飾り、和めるような雰囲気作りをしている。食堂や廊下にはクラフトの時間に全員で作成した作品を掲示している。ホーム内の壁は茶色を基調とした配色で、ドアは障子風のデザインとし家庭の雰囲気を感ずることができるよう工夫している。	左に同じ	玄関には入居者が季節の花を掛け、陶芸教室での様々な作品を飾っている。廊下には合作の貼り絵などを額に入れすっきりと飾っている。居室の入口にはそれぞれの家紋を貼り自室の目印ともなっている。入居者が1日の殆どを過ごすホールには囲炉裏が設えてあり、天井は吹き抜け、窓は大きく十分な自然光が入るなかいよいよゆったりと過ごしている。全て床暖房となっている。共用のトイレや洗面所辺りもきれいに掃除され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには植木や金魚水槽、本棚等を置いてある事で個々の利用者様がそれぞれに楽しんでいる。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しんでいる。日光に当たり水遣りを日課にされている。一人掛けソファを置いたり、居場所作りを意識した環境的配慮を心掛けている。	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者様がそれぞれに楽しんでいる。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しんでいる。日光に当たり水遣りを日課にされている3~4人掛けのソファを廊下に置き、複数の利用者様が一緒に過ごせるスペースを作るなど環境的配慮を心掛けている。	左に同じ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望で使い慣れた布団、ソファを持ち込まれている方もおられる。また個人のTVや家具、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	左に同じ	左に同じ	日常使う箸と茶碗、湯呑みだけは敢て自宅ですべてのものごとを頼んでいる。居室に備え付けはベッドのみで、入居者は使い慣れた馴染みの物を自由に持ち込んでいる。基本的に制限はない。仏壇や椅子、テーブルなどを置き、思い出の写真もあつたりと自宅と同じように穏やかに過ごせるよう支援されている。居室にはトイレや洗面台も設置されているが、掃除は出来る範囲で入居者に任せ、職員は見守りながら手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。食堂など共用の場所には囲炉裏があり、床に座り足を降ろしてゆっくりできる。また能力的に難しい方には椅子もあり、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。介助歩行や見守りの必要な利用者様は、食堂など共用の場所に近い所を居室とし、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。	左に同じ		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)						
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項 目		取 り 組 み の 成 果				
		↓ 該当するものに○印をつけてください				
		ユニットA	ユニットB	ユニットC		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	
					2. 利用者の2/3くらいの	
					3. 利用者の1/3くらいの	
					4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	
					2. 数日に1回程度ある	
					3. たまにある	
					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	

項 目		取 り 組 み の 成 果			↓ 該当するものに○印をつけてください
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	○	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと
					3. 家族の1/3くらいと
					4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	○	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまに
					4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	○	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている
					3. あまり増えていない
					4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが
					3. 職員の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが
					3. 家族等の1/3くらいが
					4. ほとんどいない